

## 令和8年度第1回大田区地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和8年5月18日（月）10:30-11:30

場 所：大田区本庁舎2階201・202会議室

出席者：別紙委員名簿参照

### 1. 開会

【事務局】

開会の挨拶

注意事項

### 2. 委員紹介

【事務局】

委員紹介

### 3. 議題及び質疑応答

(1) 新たな視点を取り入れた交通不便地域の改善に向けた取組について

(2) 日常の移動や公共交通に関するアンケート調査結果について

【事務局】

資料1と2に基づき報告

【会長】

資料(1)では坂道が考慮されているものの、地図上では対象区域がそれほど拡大していない。計算上はそれほど急な坂ではないと評価されているものと受け止められる。

【委員】

大田区の西蒲田や南馬込における過去のデマンド交通の失敗事例を踏まえ、今回の計画には同様の失敗を回避するための視点や対策が組み込まれるべきである。また、提示された資料に高低差が反映されていない。高低差を示す図が必要である。

【会長】

高低差については、空間的にどのような状況になっているかがわかるとよい。コンター図や国土地理院が公開している地点ごとの標高がわかる地図などである。

【事務局】

本日、高低差がわかる資料を用意していなかったことをお詫びするとともに、次回以降の参考とさせていただく。前回のオンデマンド交通の実証実験は、1日平均乗車人数が1.9人、収支率が0.9%と非常に残念な結果に終わったが、これは地域のニーズ把握が不十分であったことが原因である。そのため、今回の検討においては前回の反省をしっかりと踏まえ、地域の皆さまと話し合いや意見交換を重ねながら、今後の新しい地域交通の導入を進めていく考えである。

【委員】

資料 14 ページの 12 番「地域の実情にあった交通手段の導入のための取組に関する最も近い考え」における各回答の内訳について、導入に賛成する層と反対する層のそれぞれに移動制約者がどの程度含まれているのか、把握できているのであれば教えてほしい。

【事務局】

アンケート別冊の詳細版の中でクロス集計を行っている。詳細なデータを確認するため、少々時間をいただきたい。

【委員】

公共交通の導入は難しく、工夫を凝らさなければ大変であると感じている。スーパーが大幅に減少した現状では、コンビニに行ける距離や移動手段が生活に大きく影響するため、配達サービスの有無も重要になる。困った際にはタクシーの利用が現実的だが、既存の枠組みにとらわれない多様なアイデアが必要である。また、坂道の勾配については、高齢者は連続して歩くことが困難であるため、一概に勾配の数値だけで評価することはできないのではないかと。どの程度その坂が続くかなど、実際に歩いてみなければ本当の負担はわからないと思う。

【会長】

前回の試みがうまくいかなかった最大の要因は、住民の方にとって使いやすさや利便性など、利用する価値のあるサービスになっていなかった点にある。

全国的に地域公共交通が厳しい状況にある中、大田区の住民は普段から頻繁に電車が来る便利な環境に慣れている。そのため、自家用車を手放した後に、予約がしにくかったり、呼んでも来なかったり、運行本数が極端に少なかったりするようなサービスでは、利用されることはない。資料（15 ページ）を見る限り、自宅近くの乗降場所、十分な運行頻度、予約なしでの利用など、住民のニーズは非常に高いことが分かる。それにも関わらず、区が現在想定しているようなサービスを導入しても、実際のニーズと合致していないため結局は使われないのではないかと。

さらに、今回このような形で実施をして再び失敗に終われば、将来的に本当の危機（リスク）が顕在化した際、「過去に失敗したから」という理由で、必要な施策が何もできなくなる恐れがある。そのため、住民自らが主体となり、「自分たちが本当に乗るものであるか」「自分たちも一緒に運営に関わっていけるか」という視点をしっかりと据えて検討を進めるべきである。

【副会長】

自分も同様の点を懸念しており、前回の西蒲田や南馬込での取り組みで利用が進まなかった理由は、自分で予約をして指定のスポットまで行かなければならないという仕組みにあると思う。

一方で、住民の要望通りに予約なしで利用できるようにするためには、恒常的にそれなりの運行頻度を維持しなければならず、結果としてコストが大幅に膨らみ、収支率の面で前回と同じような失敗に陥りかねない。

このように利便性とコストの双方において決定打がない現状では、行政が単にシステムや仕組

みを提供するだけでは限界がある。住民自身も「自分たちも努力して利用しよう」という意識を持ち、地域の運動として一緒に取り組んでいかなければ、この厳しい状況を打開することはできないと考えている。

#### 【委員】

雪谷地区は現状を受け入れている傾向があると思う。自分が生まれた当時は池上線しかなく、駅まで15分ほど歩くのが当たり前であったため、そういう場所に住んでいるから仕方がないという思いがあった。しかし現在は、上池上循環バスが日中でも10分おきに運行しており、15分や20分に1本しかバスが来ないほかの地区に比べれば、そんなに不便ではなく住みやすい地域であると感じている。

一方で、西馬込方面へ向かうには山越えをしなければならない。今回はその急な坂道への対応を考慮してもらえたとのことで安心しているが、地域では今後さらに高齢化が進んでいく。そのため、急な坂がある場所でも高齢者がなんとか移動できるようなシステムをぜひ作ってもらいたい。

#### 【会長】

先ほどの質問に対して、回答をお願いしたい。

#### 【事務局】

質問について、アンケート詳細版の52ページと53ページに、「地域の実情にあった交通手段の導入のための取組に関する最も近い考え」が年代別に示してある。田園調布地域では60歳代で80%、70歳代で69%、80歳以上で77%であり、どの年代もおおむね同じような結果である。中馬込地域についても同様に61%以上を占めており、全体として同じような傾向が見られる。

また、66ページにある「未就学児の有無」による同質問のクロス集計結果でも、田園調布地域は未就学児がいる世帯で88%、いない世帯で77%、中馬込地域においては、いる世帯が75%、いない世帯が68%となっており、いずれの地域でも子育て世帯とそれ以外の世帯で似たような結果が出ている。

### (3) 地域内交通の導入について

#### 【事務局】

資料3に基づき報告

#### 【会長】

時間を超過してしまい申し訳ないが、非常に重要な議題であるため、引き続きよろしくお願ひしたい。ただいま説明があった内容について、質問や意見があれば発言をお願いする。

#### 【委員】

既存の公共交通と競合しないことについては、くれぐれもお願ひしたい。他自治体においては競合している地域もあるため、事業者とのすり合わせを十分に重ねていただきたい。

また、提示された新たな交通手段の例について、今回は高齢者なのか子育て世代なのか、メインとなるターゲットをどこに想定しているのかが見えにくい。ターゲットはある程度絞るべきである。例えば、グリーンスローモビリティは通勤通学には使えず、他所の事例ではエアコンがないため夏場の日中は使えないといった制約もある。このように、狙いを明確にしていかなければ施策の方向性が曖昧になってしまうため、ターゲット及び交通手段を少し絞り込んだ上で検討を進めた方がよい。

**【事務局】**

既存の公共交通と競合しないことは大前提と考えており、交通事業者とは今後も密に協議を重ねていく。

また、新たな交通手段のターゲットについては、現在は高齢者と子育て世代（乳幼児連れ）をメインに想定している。そのため、坂道に視点を当てて見直しを行った。ただし、提示した交通手段の整理はあくまで参考としての位置づけであり、今後の検討会において様々な議論や検討を重ねることで、それぞれの地域の実情に沿った最適な交通手段の導入を決めていきたいと考えている。

**【委員】**

今回は2地区で先行して取り組みを進めることになっているが、これ以外の地区における今後の展開や実施計画はあるのか。

**【事務局】**

今回先行して2地区で実施する取り組みを参考にしながら、どのような展開をしていくか今後検討していきたい。

**【委員】**

この会議の中で、「こちらの地域でもやってくれませんか」などの希望を言ってもよいのか。

**【事務局】**

この会議では、まずこの2地域での取り組みを進め、その結果をしっかりと反映しながら他地区への展開を今後の検討事項としていきたい。

**【委員】**

他区の事例をそのまま大田区に持ってきても、地域の実情に合わずに成功させることは難しいのではないかと。もう少し検討してから実施したほうがよいのではないかと。

**【委員】**

この会議のスケジュールを教えてください。

**【事務局】**

今年度内で5回ほど検討会を開催する予定である。今後の検討会を踏まえ、具体的な運行計画が定まってきた段階で、また地域公共交通会議を開催する予定である。

#### 【会長】

ステップ①にある「地域の交通需要の確認」については、どのようなサービスが提供されるかによって利用者は変わるため、潜在的な需要が見込めたとしても、最初に需要の有無だけで導入の可否を判断することは不可能なはず。そのため、ステップ①から順番に固定化して進めていく手法には違和感がある。それよりも、いかに地域を巻き込んで住民に主体的に検討してもらえるかが極めて重要である。

この取り組みは長期的なスパンで検討していくべきテーマであるため、大田区にはぜひ途中経過でも情報共有の機会を設けてほしい。

## 4. 閉会

#### 【事務局】

今後予定している地域主体の検討会において、本日委員の皆様から頂戴した多角的な意見を踏まえ、交通不便地域の改善に向けた取り組みをしっかりと進めていきたい。

また、冒頭でお伝えした通り、本日の議事資料と議事録は区のホームページに掲載する。掲載にあたっては、事前に会議録を委員の皆様へメールまたは郵送にて送付し、内容を確認していただいた上で公開する手続きをとるため、ご協力をお願いしたい。それでは、これで令和8年度第1回大田区地域公共交通会議を閉会する。

以上